

株式会社丸和（宮城県気仙沼市）



丸和社屋外観

株式会社丸和は1912年創業。LPガス事業以外にガソリンスタンドの経営や住宅設備の販売など、40代の4代目オーナーを筆頭に柔軟な組織体制で地域に根差した事業を展開する。

お客様のサービス向上に向けて

LPWA通信システムの導入は、現場からの要望があり補助金申請を決めた。「毎月1日に検針日時を指定する顧客50件余りを4名の担当者で回るなど、業務が圧迫している状況です。検針自動化で業務の効率化を図り、将来的には従業員の高齢化に伴う労働力不足をカバーできる体制を整えたい」とガス石油部の半沢大亮課長。今回は補助金を利用して487件に設置した。選定に当たってはガス使用量のサイクルが安定しない業務用と集合住宅の顧客が対象で、特に天候により稼働率が左右されるコインランドリーは雨や雪が降るたびにメーターの確認に出向くなど時間的ロスが大きな課題であったが、設置により正確な残量が把握でき配送計画が立てられると効果を実感。また、メーターが遮断する前に集中監視センターから連絡が入るため、保安の質が上がったと半沢課長は評価する。

通信機器メーカーの決め手は、センサー1台でメーター2台に接



半沢大亮課長

続できるポートが備わっていたこと(当時は唯一)。「集合住宅に関しては各部屋の使用量は把握できますが、建物全体の残量が認識できる親機を設置していなかったため現場でガスボンベの量を確認する必要があり、自社の配送システムには合わない所がありました。また、機器だけでなく事前に取り付け工事や登録費用など細かく予算組みをしておけば良かったです」と反省点を挙げた。申請業務はメーカー担当者のフォローもあり順調に進んだが、工事期間が冬だったため寒さとの戦いだったという。「2人体制で400件余り設置しました。タブレットを使用したのですが、扱いに不慣れな社員もおり手間が掛かりました」と振り返る。

ゴールド認定の取得を目指す

戸建の顧客に関しては、コミュニケーションの観点から従来通り対面での検針を実施しているが、将来的には自動検針化を進めてゴールド認定の取得を目指すという。「保安の質を高めることでお客様にご満足いただくとともにコスト削減にもつなげたい」と半沢課長は先を見据える。

会社概要と LPWA 通信システムの実態調査票

会社名	株式会社丸和		所在地	宮城県気仙沼市南郷 7-12		
社長名	尾形 長治		事業責任者	半沢 大亮	役職名	課長
連絡先	部署名	ガス石油部	ホームページ	e-maruwa.co.jp		
	担当者名	半沢 大亮	電話番号	0226-22-3011	従業員数	60 名
会社設立	1968 年 2 月					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・LP ガス、ガソリン、灯油、軽油、重油販売 ・住宅設備(キッチン、ユニットバス、トイレ等) ・ガス機器(家庭用、業務用) ・家電製品 ・冷暖房機器 ・ガス配管工事 ・業務用厨房機器各種販売 					
会社の強み	・自由度の高い業務体制					
お客さま件数	合計 1,484 件 (うち家庭用 件、業務用 253 件)					

LPWA 通信システムの 具体的活用状況 (システム・サービス等 の概要)	<input type="checkbox"/> システム連携 <input type="checkbox"/> 販売管理 <input checked="" type="checkbox"/> 料金請求 <input checked="" type="checkbox"/> 配送 <input checked="" type="checkbox"/> 保安 <具体的活用方法> 自動検針・残量管理					
	<申請前における業務上の問題点> ・ガスの配送でサイクルが一定しない業務用顧客対応に時間的ロスがあった。 ・検針作業が業務を圧迫 <導入によって期待する効果> ・ボンベの交換時期をリアルタイムで確認できる。 ・検針する時間の減少。					
導入費用総額	3,709,000 円 (内補助金対象 3,409,000 円)			補助金額	1,704,500 円	
導入期間	補助金	令和 3 年	機器設置	令和 4 年	所要期間	8 ヶ月
	申請日	6 月 30 日	完了日	1 月 21 日		

実行体制	合計	3 名	うち社内	2 名	うち社外	1 名
-------------	----	-----	------	-----	------	-----

■LPWA 通信システム導入までのスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
仕様検討												
メーカー選定												
設置先の選定												
補助金申請書作成												
事前調査												
事前周知												
工事期間							→					
試験運用										→		
本格運用										→		
メーカー講習会												

通信機器メーカー選定の決め手	・選定したメーカーは1つの機器で2つの送信できるポートがあり。当時は唯一だった。
導入・設置を進める中で生じた問題点とその改善策	<p><発生した問題点> 特になし</p> <p><上記問題点を改善した方法></p>
導入によって得られた効果や、想定外の効果	・今までは、お客様から連絡が無ければ知ることがなかったメーター遮断(お客様が自分で復帰されたりするので)をコールセンターからの通知で知ることができ保安業務の質が上がった。
効果の額	
反省点	・自社の配送のシステムとの相性が悪く、アパート等の集合住宅に活用できなかった。
今後の拡張方針	<input checked="" type="checkbox"/> システム連携 <input type="checkbox"/> 販売管理 <input checked="" type="checkbox"/> 料金請求 <input checked="" type="checkbox"/> 配送 <input checked="" type="checkbox"/> 保安 <input type="checkbox"/> その他 ()

自己評価 5 または 4 の場合は () 内に具体的内容	申請作業 ()	大変だった	5	4	3	2	1	大変でない
	仕様確定 ()	大変だった	5	4	3	2	1	大変でない
	メーカー選定 ()	大変だった	5	4	3	2	1	大変でない
	事前周知 ()	大変だった	5	4	3	2	1	大変でない
	工事作業 (寒さとの闘いであった)	大変だった	5	4	3	2	1	大変でない
	試運転 ()	大変だった	5	4	3	2	1	大変でない
	その他 ()	大変だった	5	4	3	2	1	大変でない
申請から導入後 (現在) までの 反響・意見・要望	社内から	特になし						
	社外 (業界・取引先) から	特になし						
	お客さまから	特になし						
補助事業申請予定者へのアドバイス (こうしておけば良かった、注意すべき点等)	・機器だけの見積もりだけでは無く、顧客登録する際にかかる費用なども細かく予算組すると最終的に思ったよりかかったなとならないと思います。							